

第10回 スポーツグチ杯争奪那覇地区中学校軟式野球大会
第14回KBC学園杯争奪第27回沖縄県中学校新人軟式野球大会那覇地区予選会大会要項

1. 主催 一般社団法人沖縄県野球連盟
2. 主管 一般社団法人沖縄県野球連盟那覇支部
3. 協賛 スポーツグチ
4. 後援 那覇市教育委員会、浦添市教育委員会

5. 期日・会場
令和5年11月12日(日) 9:00(1回戦) 仲西中学校(2)、奥武山多目的球場(3)、浦添中学校(2)
令和5年11月23日(木) 9:00(2, 3回戦) ANAボールパーク(3)、奥武山多目的球場(3)、浦添中学校(3)、浦西中学校(3)
令和5年11月25日(土) 9:00(準決勝・決勝戦・代表決定戦) ANAボールパーク(3)、浦西中学校(1)
令和5年11月26日(日) 予備日 ANAボールパーク、奥武山多目的球場、仲西中学校

6. 申込締切日 令和5年10月26日(木)の監督会・抽選会までに専門部長へ回答する。

7. 申込方法
(1) 大会参加申込用紙は那覇地区中体連野球専門部HPからダウンロードし、必要事項を入力し、プリントアウトしたものに
学校長の捺印を受け、原本1部、コピー4部を、**10月26日(木)までに那覇地区専門部長へ提出する。**
(2) 選手変更届は、那覇地区中体連野球専門部HPよりダウンロードし、校印を押し印して、
原本1部、コピー4部を11月12日(日)7:30までに各球場長に提出する。
※大会冊子作成のため申込用紙ファイルを那覇地区中体連野球専門部HP宛(nahabaseball@yahoo.co.jp)に
10月24日(火)16:45までにメールを送信すること。
(3) 大会参加費1万円を10月26日(木)の抽選会時に那覇地区専門部長へ提出する。

8. 企画運営責任者 那覇地区中体連野球専門部
大浜 淳一(仲西中) 渡嘉敷 光範(仲井真中) 宮國 稔基(城北中) 久高 陵太郎(首里中) 安里 博文(仲西中)
野原 大輝(浦西中) 宮良 淳(神森中) 大城 征一郎(古蔵中) 比嘉 政人(石田中) 下里 洋介(松島中)
仲村 俊哉(昭葉中) 山城 千尋(松島中) 伊佐 常克(金城中) 高良 政之(神原中) 島袋 剛(浦西中) 宮里 哲平(松城中)
照屋 駿介(興南中) 瑞慶山 良樹(神森中) 當間 栄太(仲西中) 仲本 政毅(鏡原中) 山城 慶太(那覇中) 比嘉 峻也(小禄中)
大城 佑作(浦添中) 新田 宗矢(石嶺中) 上田 直哉(真和志中) 根間 誉(港川中) 座波 清匡(那覇中) 安次富 晃(寄宮中)
比嘉 京右(沖尚中) 下地 雄大(城北中) 當路 正大(興南中) 足立 忠敬(港川中) 石山 和明(安岡中) 金城 雄大(球美中)
植 憲介(久米島西中) 他

運営委員 那覇地区中体連加盟校に所属する野球部全顧問

9. 参加資格
(1) 那覇地区中体連加盟校に加盟している学校の生徒であること。
(2) 学校長が選手として本大会に出場を許可したものであること。
(3) 1チームは、選手25人、マネージャー・スコアラー2人、監督1人、コーチ2人、トレーナー1人(有資格者)の計31人とする。
※但し合同チームに関してはその限りではない(監督・コーチは最大4名以内とする。)
(4) 選手の引率は、出場校の校長・教員とする。監督については校長・教職員(常勤)とする。
教職員以外のコーチについては、学校長の認めた者で、地区・県に登録された者とする。
但し、ベンチ入りについては1名のみとする。
(5) 硬式ボールを使用球としている団体に所属しているチームとその構成員の出場は認めない。
(6) 参加資格の特例を認める。「開催基準8(6)複数合同チーム」(県に準ずる)

10. 競技規則
(1) 2023年公認野球規則及び(公財)全日本軟式野球連盟競技者必携、本大会競技規則・特別規則に則って行う。
投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、下記の通りとする。
・大会中の1日の投球制限・・・100球
・1週間の投球数・・・350球
※試合中規定投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するか、攻守交代まで投球できる。

11. 大会規定
(1) トーナメント方式とする。
(2) 試合は7回戦とし、得点差によるコールドゲームは3回以降10点差5回以降7点差とする。決勝戦も適用する。
また、日没・降雨のコールドゲームについては全試合5回以降成立とする。
日没・降雨などで試合が成立しない場合は、特別継続試合(サスペンデッドゲーム)を適用する。
(3) 延長戦の8回以降からは、タイブレークを適用する。タイブレークは無死1, 2塁の状態に継続打順で開始する。
勝敗が決しない場合は、さらに継続打順で繰返し、原則10回までとする。10回を完了しても決着がつかない時は、
抽選で勝敗を決定する。ただし、決勝戦及び代表決定戦の場合は、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決定するまで
タイブレーク方式を続行する。

12. 試合球 全日本軟式野球連盟公認内外ボールM号球とする

13. 組合せ
(1) 令和5年10月26日(木)に那覇市立城北中学校(地域連携室)で行う
(2) 監督会には監督(又は当該校の教師)が出席すること。
不参加の場合はそのチームを失格とする場合もある。

14. 表彰
(1) 優勝チームには優勝旗及び賞状、準優勝3位のチームには賞状を与える。
また、個人賞として、殊勲賞・敢闘賞・打撃賞を表彰する。
(2) 個人賞は決勝進出校から選出する。また、打撃賞に関しては規定打席
(1試合×2打席以上:**準決勝から決勝戦までとする**)に達している選手で、上位3人を選出する。

15. その他
(1) チームの責任は、引率者において、一切負うものとする
(2) 抽選は、各学校の監督が行う。
(3) 今大会の上位3チームには、第14回KBC学園杯争奪第27回沖縄県中学校新人軟式野球大会への
出場資格を与える。
(4) 今大会のベスト4のチームには第67回那覇地区中学校新人軟式野球大会(海邦銀行杯予選)のシード権を与える。
また、ベスト8の4チームに関しては、第5シードから第8シードまでのシードを与える。(抽選にて)

第10回 スポーツグチ杯争奪那覇地区中学校軟式野球大会

第14回KBC学園杯争奪第27回沖縄県中学校新人軟式野球大会那覇地区予選会特別規定

- 1. 試合時間**
 - (1) 試合は90分と計算し、その60分前までには集合する。
 - (2) 連続試合の場合は間隔を30分とする。
- 2. オーダー交換**
 - (1) オーダー用紙は大会本部の用紙を使用する。**(5部提出)**
 - (2) 攻守決定は、前の試合の4イニング終了時(第1試合は試合開始45分前)に監督立ち会いの上、主将が行う。但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。
- 3. ダックアウト**
 - (1) 抽選番号の若い方が1塁側とする。但し、同一チームが連続して試合を行う場合は移動しない。登録された監督、コーチ、選手、記録員以外のベンチ入りは禁止する。
 - (2) ダックアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止。
 - (3) ダックアウト内でのメガホン使用は監督、コーチのみとする。(ベンチ内1個とする。)
- 4. シートノック**
 - (1) シートノックは、全試合後攻より行う。時間は5分間とする。
 - (2) シートノック時のみ、登録外の補助員(5名以内)を認める。なお、ユニフォーム、ヘルメットを着用すること。補助員が大人の場合でも安全面を考慮してヘルメットを着用すること。
 - (3) ノッカーは、ユニフォームを着用する。
 - (4) 1日で2試合を行うチームは、シートノックを1試合目のみ行う。なお、天候などにより球場を移動して試合を行う場合は、本部に確認の上、シートノックを行う場合もある。
※天候の理由でシートノックを行わない場合もある。その場合は試合時間を早めることもある。
- 5. 応援**
 - (1) 中学生にふさわしい応援をする。
 - (2) 応援は攻撃側のチームが優先に行う。
 - (3) 応援する保護者・控え部員は、ネックストラップ型の指定されたID(校印付き)の着用を奨励する。
 - (4) 大きな声を出しての応援は、その限りではない。また、学校会場以外での、太鼓・鳴り物での応援も、その限りではない。
- 6. 守備側と攻撃側**
 - (1) 捕手または内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は、7イニングで3度以内とする。

のタイムの回数制限 なお、延長戦(タイブレークも含む)となった場合は、1イニングに1度行くことができる。また、攻撃側についても同様とする。
- 7. 監督が投手の所へ行く回数の制限**
 - (1) 監督が1試合に投手のところへ行ける回数は3回以内とする。なお、延長戦(タイブレークも含む)は1イニングに1回行くことができる。
 - (2) 監督が同一イニングに同一投手の所へ2度目に行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。なお、他の守備についたときは、同一イニングには再び投手には戻れない。
- 8. 用具**
 - (1) バットリング、トレーニングバット、スプレー(滑り止め)、マスコットバットの使用を禁止する。
 - (2) 手袋・リストガードは、原則として「白」または「黒」を主にした高校野球対応の手袋を使用する。
 - (3) 全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が完全に消えた用具は使用できない。
 - (4) 捕手は全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った捕手用ヘルメット・マスク(**SGマーク**)・スロットガード・プロテクター・レガースとファウルカップを使用すること。また、打者・走者・次打者・ベースコーチ・バットボーイは全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った両側にイヤークラップ(内側にはスポンジ等)のついたヘルメットを使用すること。
- 9. 試合のスピード化**
 - (1) 打者・次打者・ベースコーチの4名は攻撃前のミーティングには参加せず、所定の場所に移動すること。
 - (2) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。
 - (3) 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
 - (4) 次打者席では投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。
 - (5) サイン交換は迅速に行うこと。打者はバッターボックス内でサインを見る。
- 10. その他**
 - (1) 背番号は1～25番を使用し、原則としてポジション順とする。
 - (2) チームの選手(監督・コーチ含む)は同色、同形のユニフォームを着用する。グラウンドコートも同様とする。尚、監督・コーチのシューズについても同色とする。
(シューズ・スパイクにおいては令和5年度までの大会において色の混在を認める。なお、高校野球対応のものとする。)
 - (3) ユニフォーム(教職員)の服装は平服でもよい。また、記録員はユニフォームか制服とする。
 - (4) ストッキングの形をしっかりと統一する。
 - (5) 選手交代は、監督が球審に告げること。
 - (6) 球場内においての試合前の練習はユニフォーム又は、統一のチームシャツを着用すること。
(チームシャツを着用する場合は、オーダー交換前までにユニフォームに着替えること)
 - (7) 芝生保護のため各球場において正規のシートノック以外はスパイク以外で行うこと。
 - (8) 球場内のバッティング練習は、バント・トスバッティング(1対1)までとする。
 - (9) 試合中のアップ(キャッチボール)については2組(4名以内)とする。
 - (10) 大会参加に当たり、新型コロナウイルス感染症対策として、当日、体調が悪い(発熱症状など)生徒は大会への参加を控える。※インフルエンザ等と同じく、学校への出席停止期間は大会に参加できない。
(療養期間 7日→5日に変更)新型コロナウイルス感染症に関し対応の変更がある場合は、事務局から各学校へ連絡を行う。

※ 大会参加に当たり、氏名、学校名、学年及び対戦結果、記録、画像等を主催者が発行・販売する大会冊子、出版物、ホームページ、及びマスコミへの公表に使用することがあります。